

Y04b 『宇宙スペクトル博物館：電波編 - 宇宙が奏でるハーモニー - 』

尾林彩乃（西はりま天文台）、粟野諭美（岡山天文博物館）、田島由起子（サイエンスデザイナー）、半田利弘（東大天文センター）、福江 純（大阪教育大）

マルチメディアソフト『宇宙スペクトル博物館：電波編』が完成したので、ここで報告する。

電波天文学は日本でも重要な成果を次々と挙げており、世界の天文学の進展に対して重大な貢献をしている。VERA や LMSA といった大きなプロジェクトも進行中である。さらに、電波は情報通信分野などの身近でもたくさん利用され、そちらでは注目度も高い。しかし、電波天文学の研究成果となると、可視光と比べて決してなじみがあるとは言えない。ここでは身近な例をふんだんに取り入れ、まずは“電波とは何なのか？”という視点から導入をはかる。一般的な電波の性質を学べるようにするとともに、観測によって新たに開かれた星空の世界を、初心者にも解りやすく紹介していく。なお、このソフトには、赤外線及び赤外線天文の成果も一部含まれる。

全体の構成は、導入、身のまわりのもの、実験室、観測装置、太陽系、星と星間ガス、銀河系、遠方銀河、用語集、画像集（インデックス）の、全10セクションから成り立っており、どこからでも自由に学べるようになっている。各セクションの初めのページは、初心者にも馴染みやすいように、カラー画像を中心に簡単な解説を加え、おおまかな内容を把握してもらえるような構成になっている。さらに高度な内容については、プラス α のページとして、さらに奥の階層へと進む形式になっているため、学習者のレベルに合わせて、活用できるよう配慮されている。

本ソフトはHTMLで記述され、ブラウザを利用して初心者の一人学習が可能であるとともに、専門家の一般講演などでのプレゼンテーション資料としても十分活用できるものを目指している。

なお、電波編もX線編に続いて、裳華房より市販される予定であるが、『宇宙スペクトル博物館』シリーズとして次に、可視光編（改訂版）も計画中である。幅広いご意見をいただき、参考にさせていただきたいと考えている。